

新年号

酪農

とちぎ

迎春

新年あけまして
おめでとうございます。
いざいざ。

皆様には、新しい希望とともに新年をお迎えになられたことと存じます。本年も、組合員と御家族の皆様がご健勝でお過ごしなされるよう願っております。

組合におきましては、新宇都宮支所の完成により県央地域の合理化が達成致します。酪農を取巻く環境の改善がなされるよう、組合をあげて取り組んで参りますので、ご理解ご協力をお願い致します。

元旦



新年の挨拶

代表理事組合長 前田 忠利



平成二十年の輝かしい新春を皆様とともに迎える事が出来ました。心よりお慶び申し上げます。

昨年、国会は捻れ現象となり新たな法律・法案は遅々として進まず、政情不安な状況となっており、さらに、米国サブプライム住宅ローン問題に端を発する株価の下落や経済不安を招いています。酪農に就きましては二年続けての減産型計画生産となり生産意欲を削がれ、加えて原油が先物投資等で、需要を満たして居ると云われていますが高騰が続き、庶民生活や酪農にも大きく影響し、並びにトウモロコシの価格が輸入国の

需要増、米国でのバイオエタノール生産原料に多く使用されるなどで急騰し、関連する配合飼料・粗飼料や育成飼料等が異常な値上げとなりました。配合飼料価格安定基金の補填を受けるも農家経営は大変苦しい状態となっており、このままでは新鮮な牛乳の供給が難しくなります。関東生乳販連では生産費上昇の数値を示す資料を添付し、1kgあたり十円の飲用乳価値上げを要求した乳価交渉を開始しました。加えて酪農に対する一般消費者の理解醸成促進運動、乳業経営者に酪農家より酪農経営窮状訴え値上げ要請の葉書によるお願いなど、皆様にもご協力を頂きました。昨年十一月二十一日になつて明治乳業より正式な回答があり、何と1kgあたり三円と予想もしない低い金額でした。加えて十二月十日迄に受結出来ない場合は、量販店との商取引慣行上期限があり、平成二十年四月からの値上げは〇円との内容でありました。

その後、森永乳業・メグミルク、更に明治乳業とも交渉を重ねて参りましたが、森永乳業より十一月二十八日に、1kgあたり三円と明治乳業と同額回答がありました。其の間三役会・理事会を幾度か重ねて協議の上、販売委員会も開催し充分意見の交換を行い、理事会に一任を受けました。理事会では、飲用乳価は中間的合意として1kgあたり三円の値上げを受け入れる。発酵乳・生クリーム・加工・その他向けは、続けて交渉して総合乳価引上げを図る。四月以降二十年度取引交渉を継続し、市乳価格転嫁の状況を見ながら再度交渉を行う。全国的な乳価交渉の有り方の再検討を行う。国に対し酪農支援対策充実要請活動を行うなどを決め残念ながら受結しませんでした。

組合員の皆様には、本年三月末迄冬乳価で大変苦勞されます。少しでも緩和出来ればと考え飼料高騰対策として、十二月〜三月迄の乳量に対し、1kgあたり二円をお支払する事に致しました。関東生乳販連の中期計画である、広域検査施設の設置に就いては、四箇所の候補地の中から、本組合宇都宮CS検査室が選定され、協議の上本所一階部分を全部賃貸する事とし、改修工事を行い本年四月より関東生乳販連広域検査所として正式に移動致します。しかし、統一乳価テーブルに基づく乳代金精算は、多くの会員の事情により、一年延期し二十一年度より実施となりました。乳質保全規程、数値等に就いては、最終の詰を行つていくところであります。

拠点整備として計画しておりました、県央地域の施設合理化については、ふれあい牧場休憩所を会議室として改修し、その東側に宇都宮支所・ふれあい牧場事務所を移転新築すべく、昨年十二月十三日に地鎮祭を行い着工し本年三月末に完成の予定となっております。

平成二十年の計画生産は基本的に十九年度生乳供給目標数量に対し北海道は一〇三%、都道府県は一〇〇%生産意欲の高い会員には全体で可能な限り割当となる方向で検討しています。今月中には「Jミルクの需要予想に基づく配分が行われる予定であります。暗いトネルの出口が見えたとに思われますが、まだ牛乳消費の減少は止まっておらず、消費拡大への取組みが必要であります。組合員の皆様とともに役職員が一体となり、あらゆる方向に努力を重ね、酪農好転に向けた第一歩の年になる事を祈念申し上げ、新春の挨拶と致します。



知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の皆様、
あけましておめでとございます。

早いもので、私が知事に就任してから三年余が経過し、任期の仕上げの年を迎えることとなりました。この間、私は、これからの「とちぎ」づくりの基本指針となる「とちぎ元氣プラン」を策定するとともに、対話と協調を基本として、県民中心、市町村重視の県政運営を積極的に展開して参りました。

おかげをもちまして、子どもに

対する医療費助成制度の拡充を始め、公立中学校全学年での三十五人学級の導入、さらには、市町村と住民が協働してまちづくりに取り組む「わがまち自慢推進事業」の推進などの各種施策を市町村と連携して進めることができました。

今年は、新しい県庁舎のもとで、栃木県の新たな一歩を踏み出すこととなりますが、職員一同初心に戻り、気を引き締めながら、「活力と美しさに満ちた郷土」とちぎの実現のため、全力を挙げて県政運営に取り組んで参る決意を新たにいたしましたところであります。

さて、現在、高齢化と人口減少が同時に進行し、様々な影響が地域に及びつつある中、地域の活力をいかに向上させていくかが、地方自治体にとって喫緊の課題と

なっており、本県においても、かつてない厳しい財政状況のもと、簡素で効率的な行財政システムの構築と個性豊かで活力に満ちた地域づくりの推進が求められております。

私は、本県が今後とも活力を維持し発展していくため、三年目を迎えます総合計画「とちぎ元氣プラン」を着実に推進することはもとより、昨年九月に策定した「平成二十年度政策経営基本方針」に基づき、「地震等災害への対応」、「地域医療の確保」、「県民の健康づくりの推進」、「看護する家族等への支援」といった緊要な課題に特に力を入れて取り組むなど、事業の選択と集中を図るとともに、更なる行財政改革を推進することにより、県民益の最大化に努めて参ります。

さらに、新年度からは「団塊の世代に着目した」とちぎの元氣づくり」に加え、「ブランドに着目した誇り輝く」とちぎ「づくり」を重点テーマとし、これまで以上に広い視野と新たな発想に立ち、

県民協働による取組を積極的に進めて参る考えであります。

生乳につきましては、「ミルクの国とちぎ」が誇る重要なブランドであると考えており、配合飼料価格の高騰や飲用牛乳を中心とした消費の伸び悩み等、厳しい酪農情勢ではあります。県としても酪農家の皆様方と一緒に、本県酪農の振興に努めて参ります。

私は、県民の皆様が安心して生活でき、誇りと自信を持つことができる元氣で活力ある「とちぎ」の創造に向けて、「いいひと いいこと つぎつぎ」とちぎ」を合言葉に、県民の皆様と手を携え、最大限の努力を傾注して参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が酪農家の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



新年のあいさつ

青年部本部部长 相馬義樹



新年明けましておめでとございます。皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年中は、青年部活動に対し組合役職員の皆様へ格段のご協力とご指導を賜り厚くお礼申し上げます。また、青年部員には各種活動への積極的な参加協力を賜り書面を拝借し厚くお礼を申し上げます。

一年前のご挨拶の中で、以前から行われてきた各種事業を通して部員間の親睦を深めつつも、さらに、消費拡大に貢献できるような活動を展開していきたいと述べていただきました。様々な意見やアイデアを参考に、各地域で行われる産業祭や催し物などへの参

加・試飲即売会の実施など、部員それぞれの立場から、消費拡大に係わる事業に取り組んで参りました。各支部の人員・構成状況などにより、いろいろな頭を悩ませる部分もありましたが、消費者との貴重な交流が実現出来ました。

しかしながら、依然として厳しい生乳需給状況の続く中、飼料原料の需要がバイオ燃料生産のために急増したことによる価格の高騰さらに、原油価格の高騰などが重なるなど、生産現場を直撃する事態が次から次へと起きています。

現代の酪農は、今までと同じ牛の飼い方をしているのでは、明らかに利益は上がらない時代です。各農場では、色々工夫をしながらコスト削減に努めていることと思います。組合においても、計画生産期中見直しや不需要期への特別対策が採られたところで。

何かと明るい話題の乏しい最近の酪農情勢ですが、こんな時代だからこそ幅広い視点を持ち、今何をすべきか、どんなことが出来るのかを考えていきたいと思っております。部員にとって青年部活動が問題解決のヒントやより多くの情報を提供する場として、さらに、人と人とのつながりを大切に思う場として機能することを願います。最後になりましたが、青年部員、

組合員ならびに、組合役職員の皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

女性会本部部长 大島知子



新年明けましておめでとございます。皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年中は組合役職員の皆様には女性会活動に対し格段のご協力とご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。また、女性会会員の皆様には積極的な参加と協力を賜りありがとうございました。

顧みますと、昨年は二年連続となる減産、飼料・燃料の高騰と大変厳しい年でした。今年度は減産ではなく乳価の値上げなど明るい兆しが見えてきましたが、まだまだ厳しい様相です。

昨年十二月には女性会全体研修会として、全酪連三輪達雄氏を講

師として迎え、なぜ牛は発情するのか」という講演をいただきましたが、面白く、おもしろく大変有意義な研修でした。その中で、やはり牛の観察をきめ細かく行うことにより、生産性が向上するということが実証されたかと思えます。

私たち女性会としては統一テーマ「牛乳を知ろう、広めよう」「チェックシートの記録、保管を徹底しよう」を掲げ、様々なイベントに参加し、積極的に牛乳の消費拡大に努めてまいりました。私たち自らが牛乳を知り消費者に対してPR活動を行い、その積み重ねによって少しずつ消費が増えていくのではないかと思います。今年も引き続きこのような活動を進めていきたいと考えています。

また、いま消費者に求められているのは、安全・安心で高品質な牛乳なのではないかと思えます。私たち生産者はチェックシートの記録、保管を徹底することにより、目でわかる安全・安心な牛乳生産を継続して行くことが大切です。今年も、格段のお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって明るく充実した一年になることを祈念しつつ、私からの新年のあいさつとさせていただきます。



東西南北

那須高原支所

支所活動推進協議会主催講演会
及び飼養管理技術講習会を開催！

①支所活動推進協議会主催講演会

十一月十九日、那須塩原市いきいきふれあいセンターに於いて、組合員他七十三名の参加を得て、支所活動推進協議会（渡辺信一会長）主催による講演会が開催されました。講師には東京大学大学院教授の鈴木宣弘先生を招き、「日本酪農を取り巻く内外情勢と経営の展望」と題し、飲用乳消費減退の打開策やWTO（世界貿易機関）・FTA（自由貿易協定）交渉進展による貿易自由化圧力への対応、バイオ燃料による飼料価格高騰への対応等について講演を頂きました。今回は国内外の情勢を詳細に把握することが出来、有意義な講演会となりました。



の対応等について講演を頂きました。今回は国内外の情勢を詳細に把握することが出来、有意義な講演

②和牛子牛(ET産子)の飼養管理技術講習会

昨今の厳しい酪農情勢を鑑み、和牛の肥育素牛生産に取り組み始める農家が増えてきたことから、飼養管理技術向上を目的に、十一月十四日当支所にて開催しました。講師には雪印種苗(株)北海道研究農場の阿部健太郎氏を招き、ET和牛の基本的な飼いや、ホルスタイン種との飼養管理の比較、哺乳方法等を説明して頂いたほか、ET和牛での優良事例紹介がありました。参加者からは現場の問題点を始め、先生との活発な意見交換を行いました。講習会終了後は事務局から、酪農経営活用肉用牛増頭推進事業について説明し散会しました。

宇都宮支所

宇都宮支所全体研修会開催

十二月五日、塩谷地方農業共済組合大会議室に於いて、組合員他四十六名の参加を得て、宇都宮支所活動推進協議会主催（小林幸雄会長）による全体研修会が開催され、講師には(株)科学飼料研究所に所属、ホクレン・米国穀物協会とコンサルタント契約し、いつもガチ



して講演が行なわれました。

五十嵐氏は、日本はもとより世界各地の酪農現場を見て回った実践上の経験をもとに、飼養管理の基本（牛を見ないでエサを与えるな！）や、サイレージの品質とエサの組み立て及び分娩前後の対処方法等を分かりやすく説明しました。乳牛の飼養管理方法はさまざまであり、情報に振り回されるな！情報を自らの経験に裏打ちされた自分自身のものにせよ！」経営向上のためには牛が何を望んでいるのか十分な観察と経験を尊重した的確な対処が必要で、百聞は一見に如かず。百見は一動（＝経験）に如かず。」と明快で痛快、そして愉快で有意義な研修となりました。

ンコ（本気）で現場と向き合っている五十嵐弘昭氏を迎え、オールドフアッシュン（往年流）行った：の飼養管理」と題

栃木県南支所

県南支所全体交流会開催

十一月十五日、晴天に恵まれた



最後にビンゴゲームで全体交流会を締めくくり、楽しく充実した一日を過ごされ親睦を深めました。

支所多目的広場に組合員他八十名が集い、上野清協議会々長の挨拶により支所全体交流会が開催されました。今年度は年齢幅を考慮し、玉入れ種目を選び、即席で六チームが編成され、紅白に分かれ二チームずつ競技を行いました。この競技は、八人で籠の中に六十個の紅白玉を全て入れ、掛かった時間を競う種目です。最初は玉入れなど鼻をくくっていましたが、残り少なくなつた玉が意外に入らず、汗をかき、息を切らしながら夢中で競技しておりました。参加者した方々から、「来年もこの種目でやりたいな」との声も上がるなど、大いに盛り上がり満足した様子でした。

午後はサロン風に仕立てた会議室にて、ワンポイントチェックリスト講習会を開催しました。後に懇親会となり、各テーブルで様々な話題について情報交換を行い、最後にビンゴゲームで全体交流会を締めくくり、楽しく充実した一日を過ごされ親睦を深めました。



部課だより

生乳販売課

生乳生産量十一月度前年比九九・六%、需要期（六月～十一月）の関東生乳販連への販売実績は配分比九九・一%となりました。

十一月度の生乳生産量は一七、三四六トン（前年比九九・六%）となりました。

十一月度の支所別生乳生産量をみると、那須高原支所においては前年比九九・八%、宇都宮支所一〇〇・七%、県南支所九八・二%の実績となりました。

また、需要期（六月～十一月）の累計生乳生産量は一〇六、八二六トン（前年比九八・六%）となりました。支所別の需要期における生乳生産量をみると、那須高原支所においては六四、〇六四トン（前年比九九・〇%）、宇都宮支所一七、八〇六トン（一〇〇・四%）、県南支所二四、九五六トン（九六・四%）の実績となりました。また、関東生乳販連への需要期

（六月～十一月）の生乳販売実績は一〇六、一七三トン（配分比九九・一%）となりました。

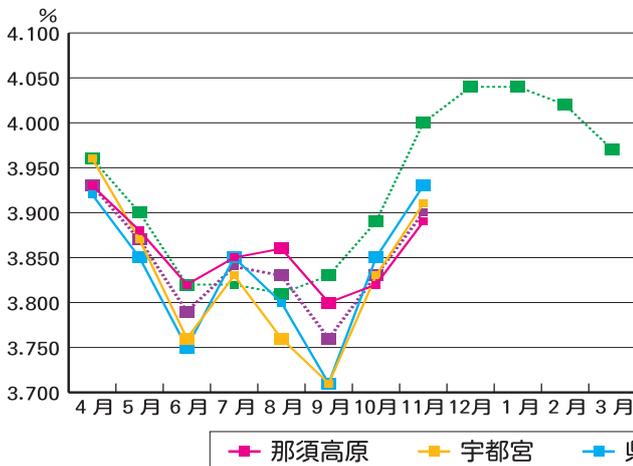
十一月度、関東においては前年比九六・六%で累計では九六・二%となりました。

関東の十一月の特定乳製品向けについては三・四五%（前年二・三一%）と前年より加工率は増加しました。飲用牛乳向けは五・六%の減となり、累計においても四・八%の減と飲用需要の低迷が続いております。また、十一月のはつ醇乳向けについては前年比一〇一・〇%（累計一〇一・六%）となっております。

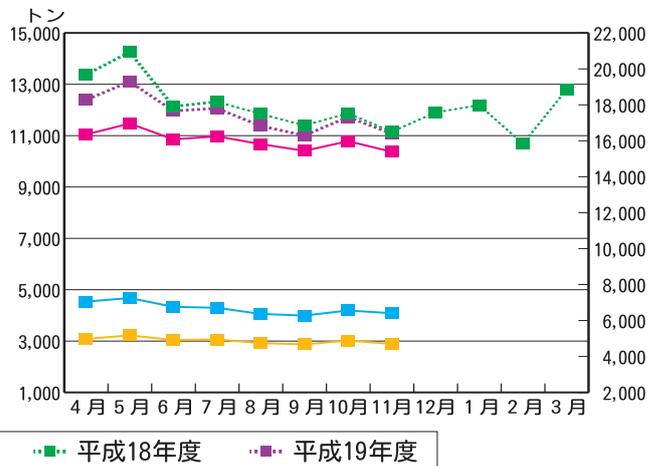
全国の生乳生産量については十一月度（前年比）九九・七%、累計実績では九八・五%となり、飲用牛乳向けは十一月度（前年比）九七・〇%、累計では九六・四%となっております。

組合における十一月度乳質成績は、脂肪率が三・九〇%、無脂固形分率は八・八五%となりました。細胞数については、二二・八万（前年二〇・七万）となりました。十一月迄の乳量及び乳質成績は下記のとおりです。

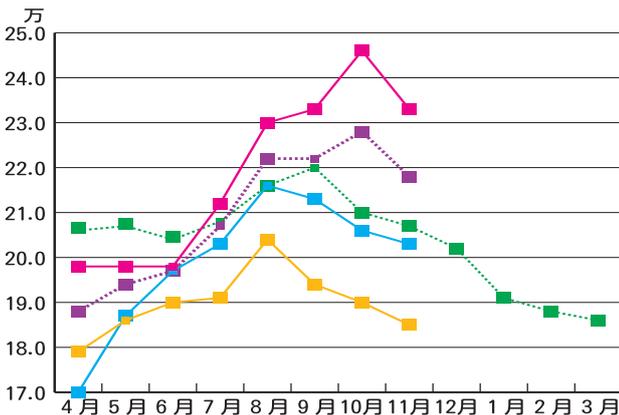
◆ 脂肪率の推移



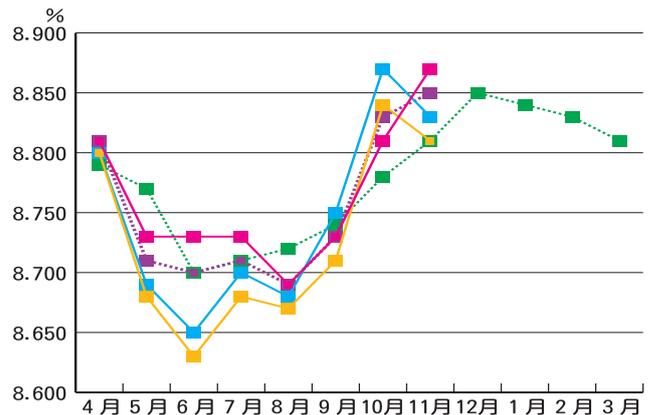
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



酪農部

女性会全体研修会

去る十二月六日、冬の訪れを感じるような肌寒い風の吹く中、ホテルエピナール那須において女性会全体研修会が、参加者百四十四名で開催されました。

講師に、全酪連購買部酪農生産指導室長の三輪達雄氏を迎え「なぜ牛は発情するか」と題し、自然の摂理を基にし、「なぜ発情するのか」、「発情を発見するには」、「繁殖障害とは」等について長時間にわたりお話しいただきましたが、



笑いを交えながらのわかりやすいお話にあつという間に時間は過ぎてしまいました。講演会終了後、講師



深められたのではないのでしょうか。

酪農ヘルパー三浦篤氏 全国協会会長賞受賞

十二月七日、東京南青山会館において(社)酪農ヘルパー全国協会主催の酪農ヘルパー事業中央研究会が開催され、当組合から渡辺信一ヘルパー利用組合長始め利用組合役員、専従ヘルパー、事務局担当職員が参加しました。酪農ヘルパー事業の在り方を検討することが開催目的で、今回は名古屋大学准教授、淡路和則氏からドイツにおける労働支援サービスについての

を囲みながら牛乳で乾杯し、懇親会が開催されました。和やかな雰囲気の中で会話もはずみ、会員同士の懇親を



用農家に信頼され、満足させられる様日々研鑽していきたい」と謝辞が述べられました。

基調講演がありました。社会保障制度の進んだドイツではヘルパーは社会保険が適用され、また、ヘルパー対象は農業部門全般で家政ヘルパーまで利用ができる体制で、日本との歴史の違いを感じました。講演後、酪農ヘルパー事業を支援、そして事業の発展に貢献した専従ヘルパー十三名、利用組合役員二名が酪農ヘルパー全国協会会長賞を受賞しました。受賞者を代表して、当組合専従ヘルパー三浦氏から「私が受賞できるのは酪農家やヘルパーの諸先輩方のおかげでこの場を借り御礼を申し上げます。今後も現場のプロとして利用農家に

12月ホクレン初妊牛市場成績

(単位: 頭, 千円(税込))

| 市場名 | 開催日 | 成立頭数 | 平均価格 | ~400 | 401~450 | 451~500 | 501~550 | 551以上 |
|------|-----------|-------|------|------|---------|---------|---------|-------|
| 南北海道 | 12月7日 | 129 | 407 | 61 | 51 | 7 | 7 | 3 |
| 釧路 | 12月12日 | 308 | 425 | 87 | 148 | 64 | 1 | 8 |
| 根室 | 12月13日 | 489 | 473 | 42 | 120 | 216 | 69 | 42 |
| 豊富 | 12月14日 | 540 | 446 | 90 | 208 | 186 | 40 | 16 |
| 十勝 | 12月17・18日 | 963 | 448 | 177 | 360 | 306 | 60 | 60 |
| 北見 | 12月19日 | 436 | 474 | 29 | 104 | 187 | 96 | 20 |
| 合計 | | 2,865 | 452 | 486 | 991 | 966 | 273 | 149 |
| 前月 | | 2,782 | 420 | 993 | 1,262 | 332 | 42 | 153 |
| 前年同月 | | 2,852 | 465 | 311 | 770 | 1,259 | 329 | 183 |

上記金額にはE T妊牛価格を含みます。

家畜市場成績

平成19年12月

(単位: 円(税込))

| 市場名 | 種別 | 成立頭数 | 平均体重 | 最高 | 最低 | 平均 |
|------|------|------|------|---------|--------|---------|
| 西那須野 | ホルス雄 | 112 | 58 | 39,900 | 110 | 22,827 |
| | F1雄 | 74 | 59 | 134,400 | 44,100 | 74,678 |
| | F1雌 | 86 | 52 | 78,760 | 5,250 | 38,763 |
| 館林 | ホルス雄 | 14 | 81 | 31,000 | 9,000 | 21,571 |
| | F1雄 | 36 | 89 | 168,000 | 65,000 | 111,417 |
| | F1雌 | 28 | 84 | 107,000 | 46,000 | 80,786 |



理事会だより

十一月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
 - (二) 十一月分生産者支払乳価について
 - (三) 本所改修工事の入札結果について
 - (四) 宇都宮支所建設工事の入札結果について
 - (五) ふれあい牧場整備に係る施設建設工事の入札結果について
 - (六) 平成十九年度上半期定期監査報告について
- 協議事項
- (一) 十月度事業実績について
 - (二) 不需要期経営対策について
 - (三) 平成十九年度生乳計画生産不需要期の対応について
 - (四) 流量計の導入について
 - (五) 生乳検査機器の取得について
 - (六) 乳質保全規程の一部改正について
 - (七) 関東生乳販連との検査施設に係る賃貸借契約について
 - (八) 年末手当支給について

お知らせ

関東生乳販連広域検査所稼働

かねてより建設していた「関東生乳販連広域検査所」がこの度完成し、仮稼働の運びとなりました。同所は、検査機器の調整・担当職員の研修等を充分行い、本年四月からの本稼働に備えて行きます。また、組合としても、スムーズな移行が出来るよう協力をして参りますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

宇都宮支所起工式

来年三月の完成を目指す

宇都宮支所建設起工式を十二月十三日、組合役職員と施工業者合わせて約四十名が出席し行いました。



神事は津嶋神社、岩松宮司による安全祈願祭が執り行なわれ、参列者が見守るなか菊池副

組合長の鍬入れ、施工代表者が地鎮の儀を、続いて玉串奉奠などが行われ、工事の無事完成を祈りました。

女性会活動報告

今回は女性会大田原支部（支部員数五十名）をご紹介します。

私達の支部では、組合の事業への参加や協力はもちろん、大田原地域の産業文化祭に参加し牛乳の消費拡大を図るための活動を行っています。支部の事業としては自己研鑽のため研修等を行い、昨年は那須塩原市の小針秀夫牧場を視察し、育成や飼養管理などを学びました。

また、忙しい酪農作業の傍ら、ちょっと賢沢に観劇などの研修会も行い会員の交流に努めております。酪農に限らず、農業の経営は厳しいのが現状ですが、飼料高騰・原油高のなど、



施設概要

鉄筋平屋建 事務所
 建築面積 三四三㎡
 設計管理 全農とちぎ
 施工 東昭建設(株)

酪農の経営を維持して行くためのハードルが高くなったことは確かです。いかにその高いハードルをクリアして行くかという難しい状態の中で、女性会大田原支部の存在は、自分の襟を正す場であったり、また仲間から心の潤いが得られる場でもあります。厳しい現実のとらえ方、対応の仕方はそれぞれであっても私達は女性会員として共に力を合わせ、下を向かず日々頑張つて行きたいものです、一歩前へ出るために。